

1. 市民アンケート調査結果概要

(1)実施概要

調査の目的	公園や緑地の利用状況や、今後の緑のまちづくりに対する市民の考えを把握する
調査方法	郵送配布、郵送回収
配布対象	18歳以上の市民 3,000名（※うち、宛先不明 14通）
調査期間	配布：令和元年 12月 27日（金） 回収〆切り：1月 14日（火）
回収状況	1,114票（回収率：38.5%）
標本誤差	2.9%（信頼度 95%）

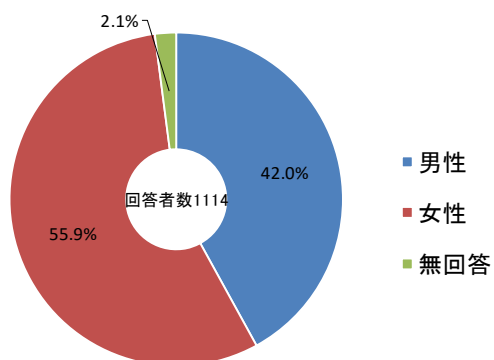
■小学校区別回収数・回収率

小学校区	回収数	回収率
赤坂小学校	59	45.7%
一宮西部小学校	50	35.2%
一宮東部小学校	26	37.1%
一宮南部小学校	16	42.1%
牛久保小学校	45	37.5%
金屋小学校	25	29.4%
国府小学校	81	40.3%
小坂井西小学校	68	36.4%
小坂井東小学校	60	36.8%
御油小学校	62	41.6%
桜木小学校	32	34.8%
桜町小学校	38	37.3%
三蔵子小学校	56	33.9%
代田小学校	51	34.5%
千両小学校	14	43.8%
中部小学校	81	39.9%
天王小学校	30	39.0%
東部小学校	27	26.7%
豊川小学校	34	34.3%
長沢小学校	35	44.9%
萩小学校	22	51.2%
八南小学校	42	26.4%
平尾小学校	20	33.9%
御津南部小学校	57	30.8%
御津北部小学校	22	33.8%
豊小学校	40	37.0%
不明・無回答	21	-

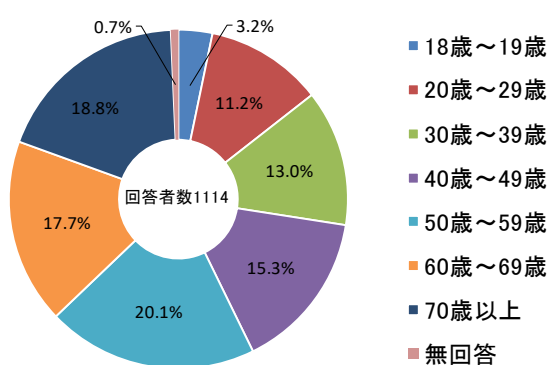
(2)回答者の属性

回答者の個人属性は以下の通りです。

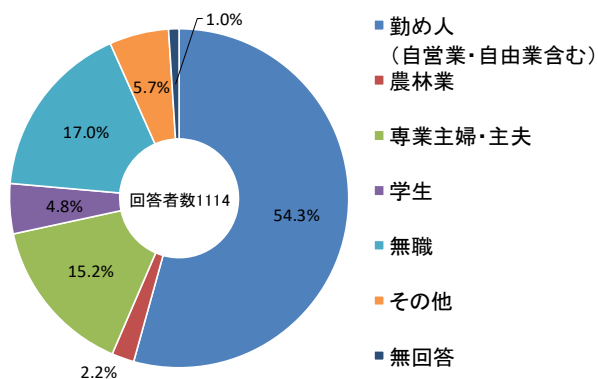
■性別



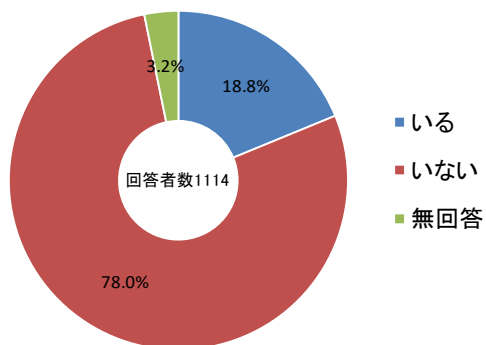
■年齢



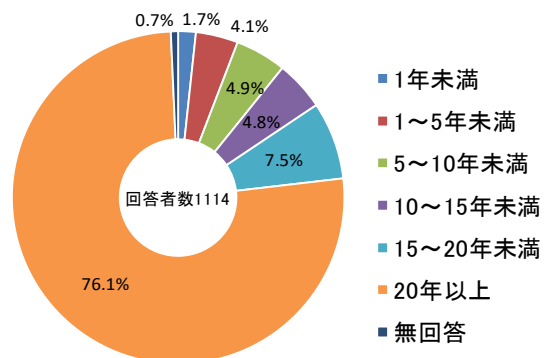
■職業



■小学生以下の子どもがいる世帯

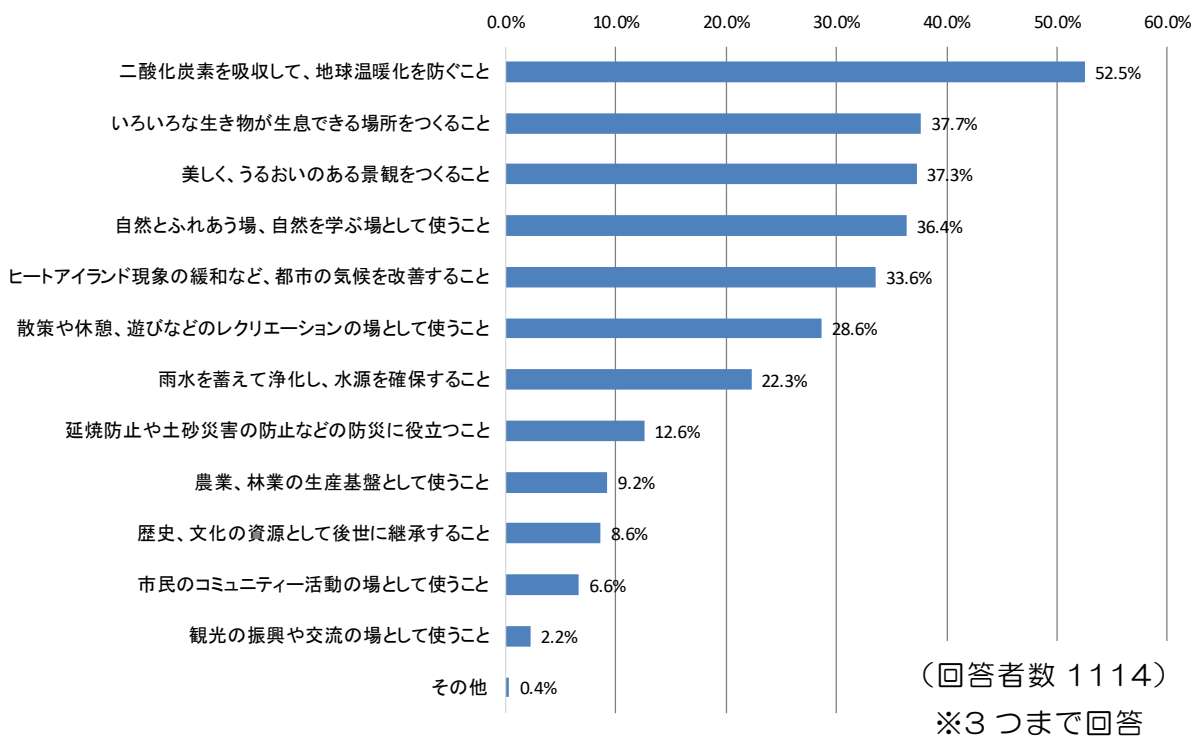


■居住年数

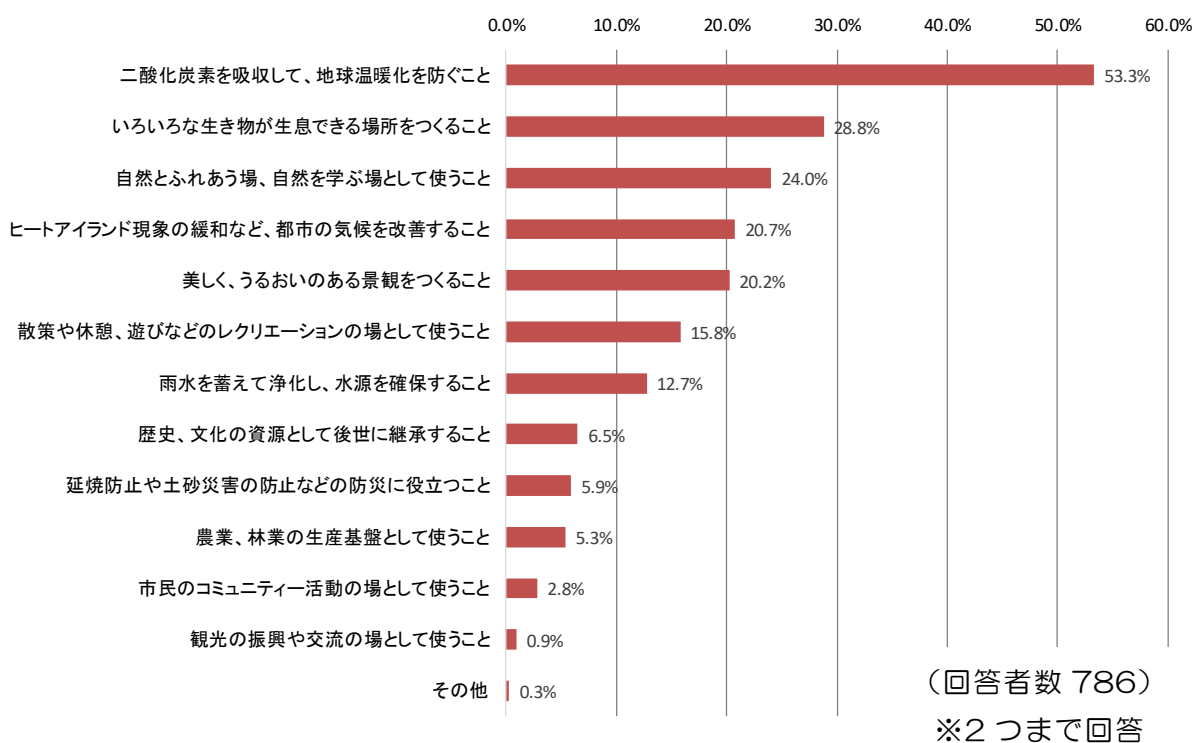


(3) 「緑」の役割として大切なもの（設問7）

- 緑の役割として大切なものは、「二酸化炭素を吸収して、地球温暖化を防ぐこと」が約53%と最も多い。次いで、「いろいろな生き物が生息できる場所をつくること」が約38%、「美しい、うるおいのある景観をつくること」が約37%と多い。
- H21年度と比較して景観への関心が高まっている。



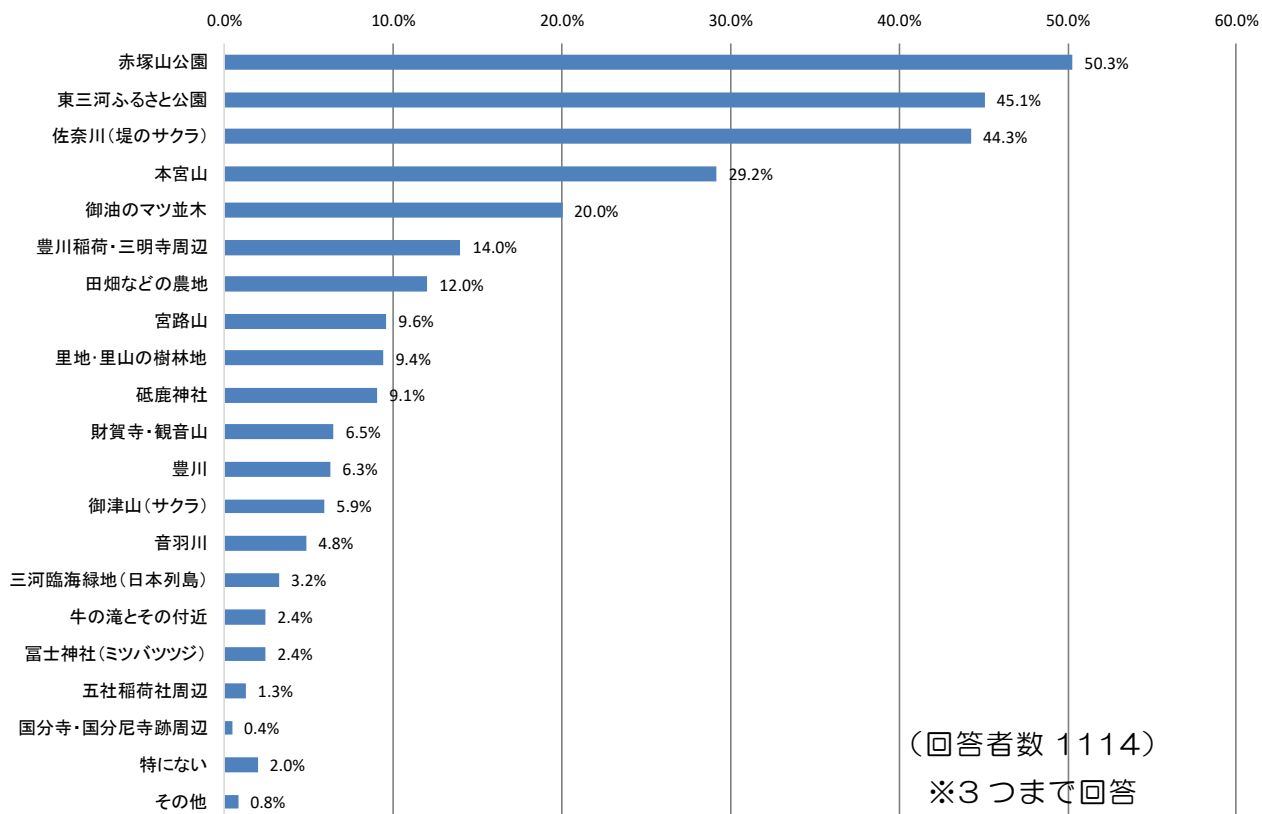
【参考：H21 年度調査】



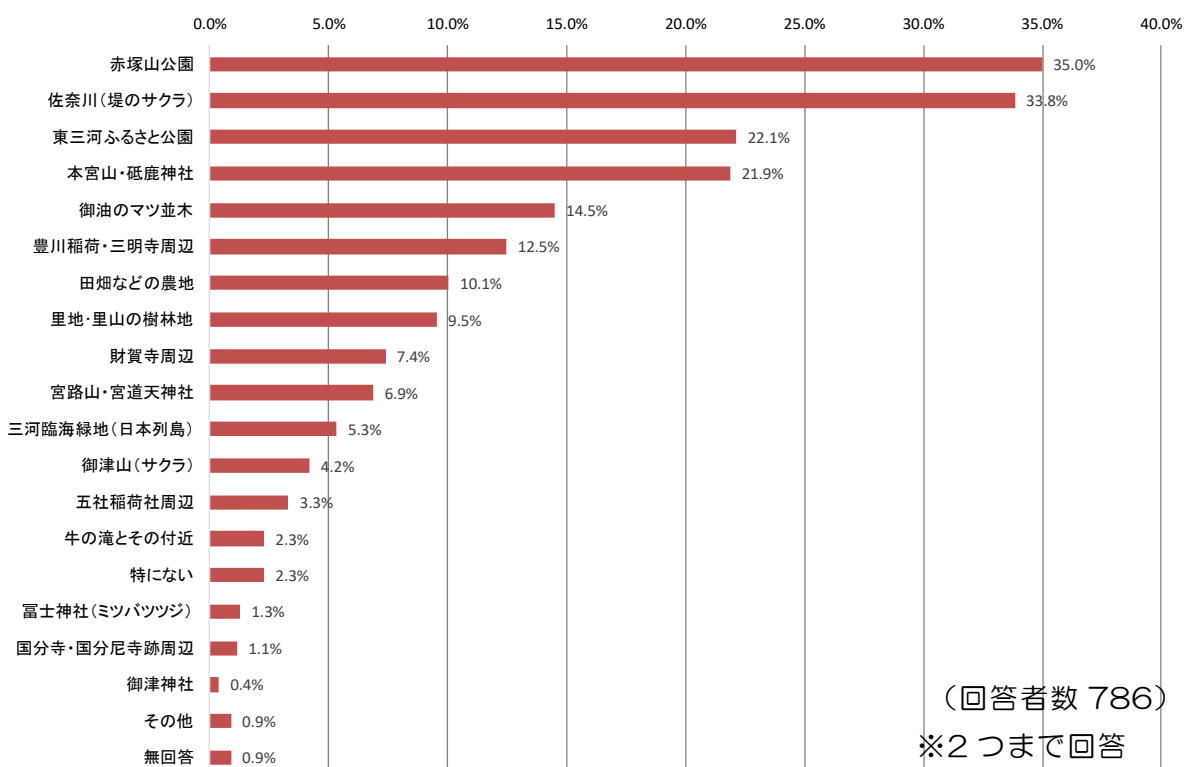
(4) 豊川市の現在の緑

1) 豊川市の特徴的な緑（設問8）

- 市内の特徴的な緑として「赤塚山公園」を選択した回答者が約 50%と最も多い。次いで、「東三河ふるさと公園」が約 45%、「佐奈川（堤のサクラ）」が約 44%となった。
- 得票順は異なるものの、上位 5 項目は平成 21 年度の調査と同じ結果となった。

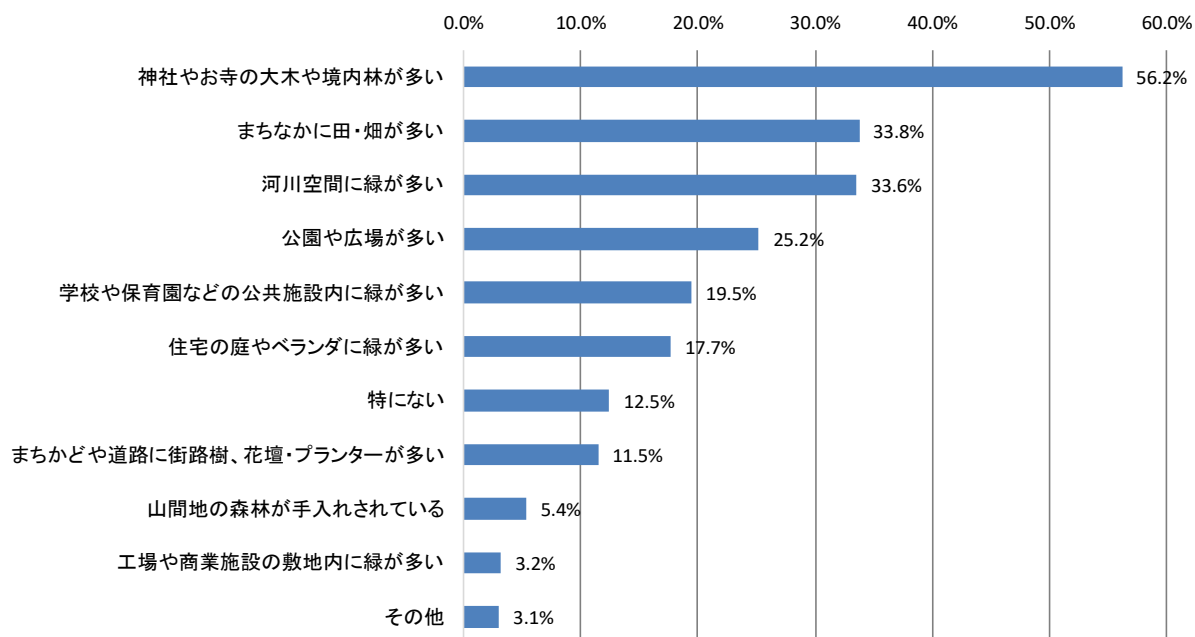


【参考：H21 年度調査】



2) 居住する小学校区の緑の様子（設問 9）

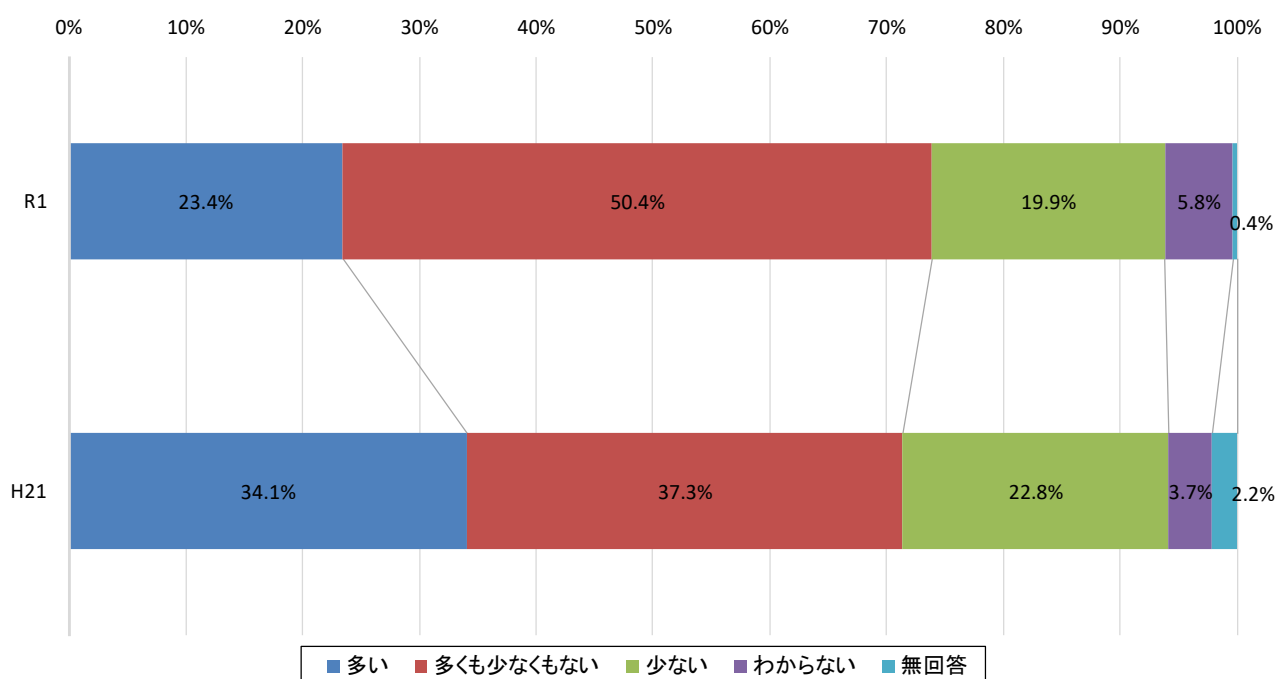
- ・居住する小学校区の緑の様子として、「神社やお寺の大木や境内林が多い」が約 56%と最も多い。次いで、「まちなかに田・畑が多い」と「河川空間に緑が多い」が約 34%と多い。



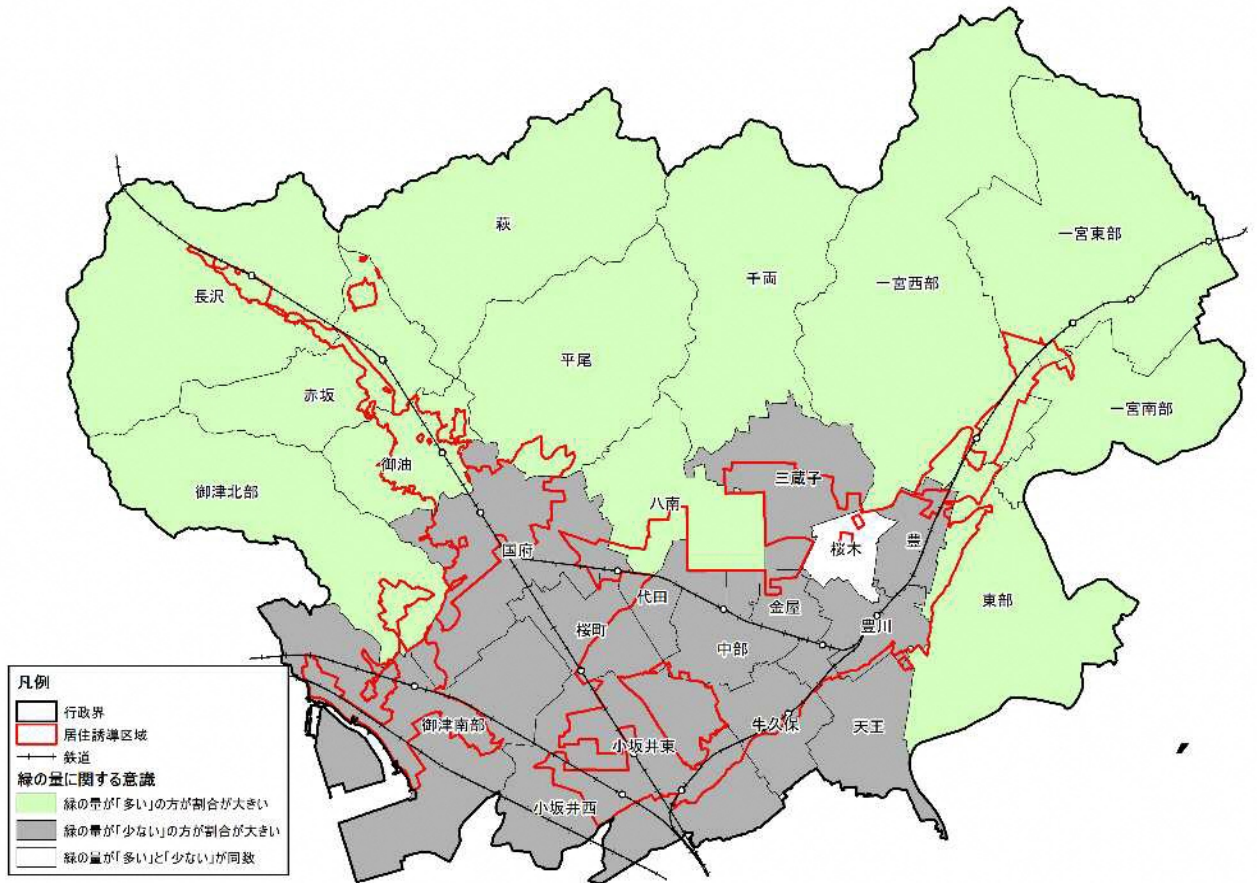
（回答者数 1114）

3) 居住する小学校区の緑の量について（設問 10）

- ・緑の量は、「多くも少なくもない」が約 50%と最も多い。
- ・平成 21 年度に比べると、「多い」は減少している。
- ・小学校区別では、緑の量が「多い」と「少ない」の回答割合を比較した場合、「多い」の割合の方が大きい小学校区は、北部及び東部に集中した。

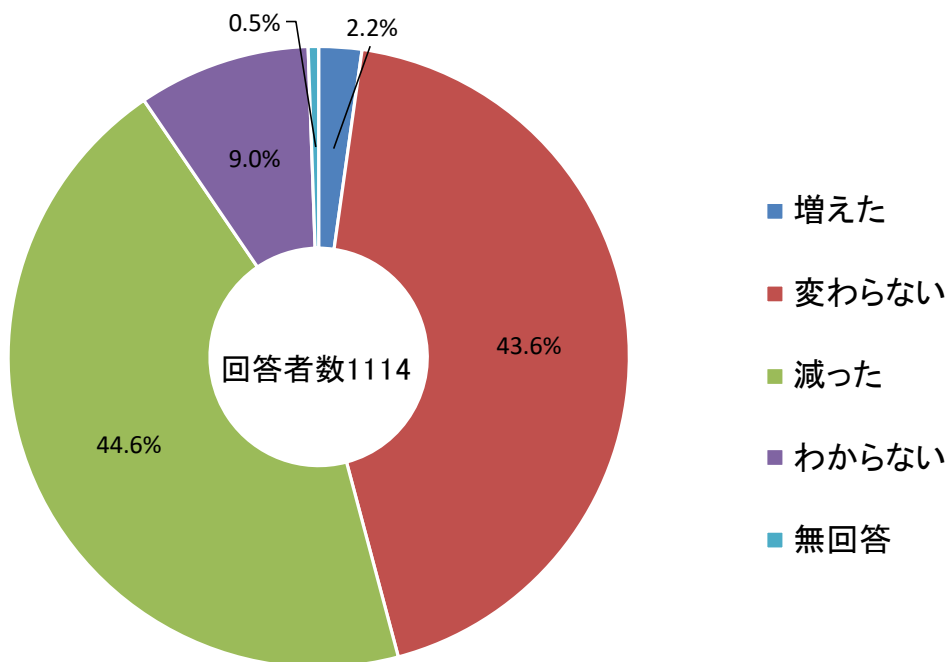


■ 小学校区別の緑の量に関する意識



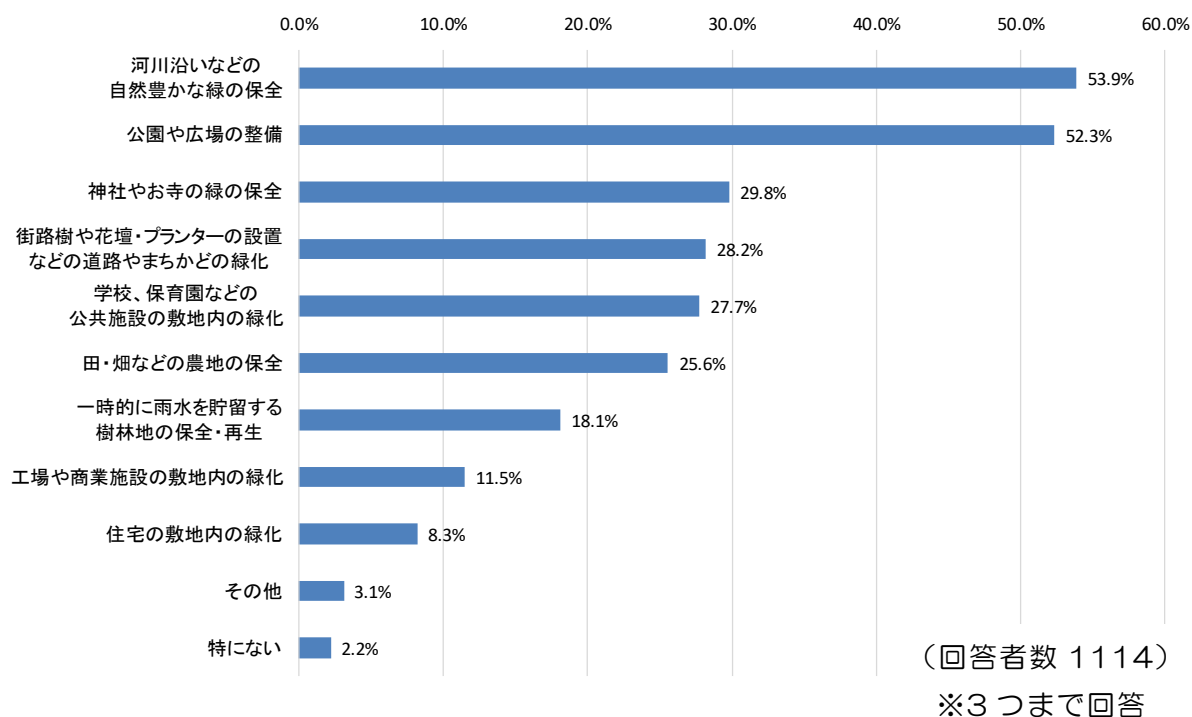
4) 概ね 10 年前と比べた場合の居住する小学校区の緑の量について（設問 11）

- ・ 概ね 10 年前と比べて、緑の量が「減った」が 45%と最も多い。

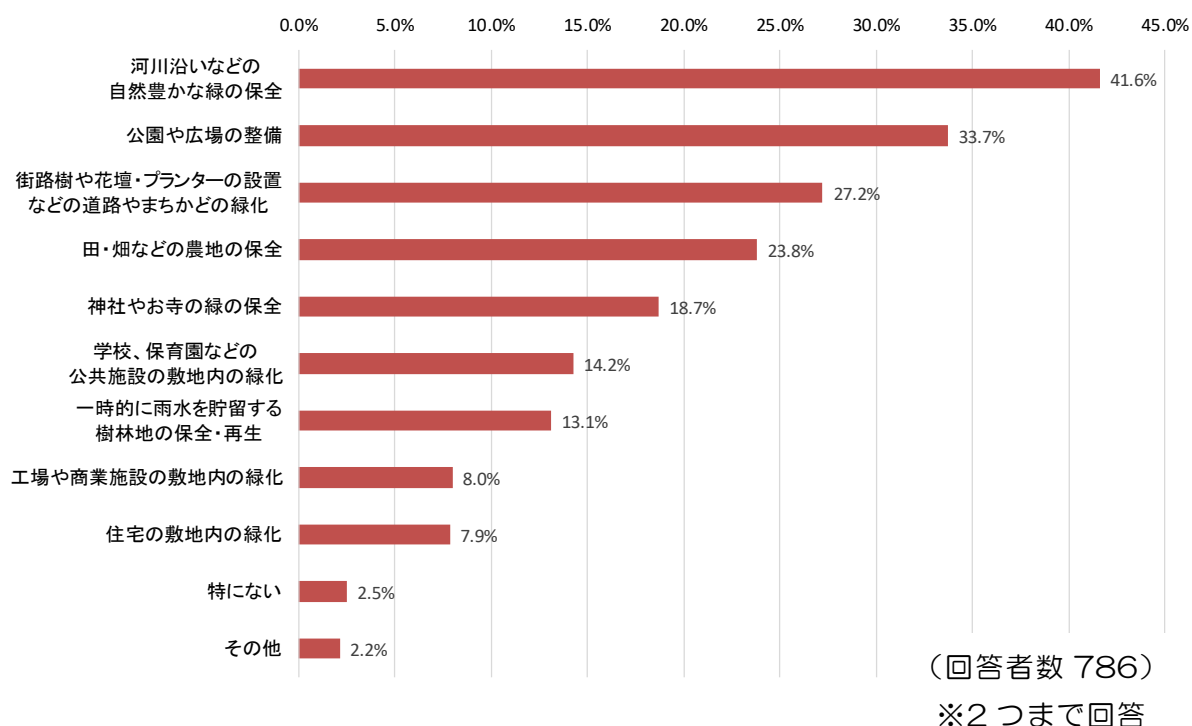


(5) 「緑」を守り増やすために今後行うこと（設問 12）

- ・「緑」を守り増やすために今後行うべきこととして、「河川沿いなどの自然豊かな緑の保全」と回答した方が約 54%と最も多い。次いで、「公園や広場の整備」が約 52%、「神社やお寺の緑の保全」が約 30%と多い。



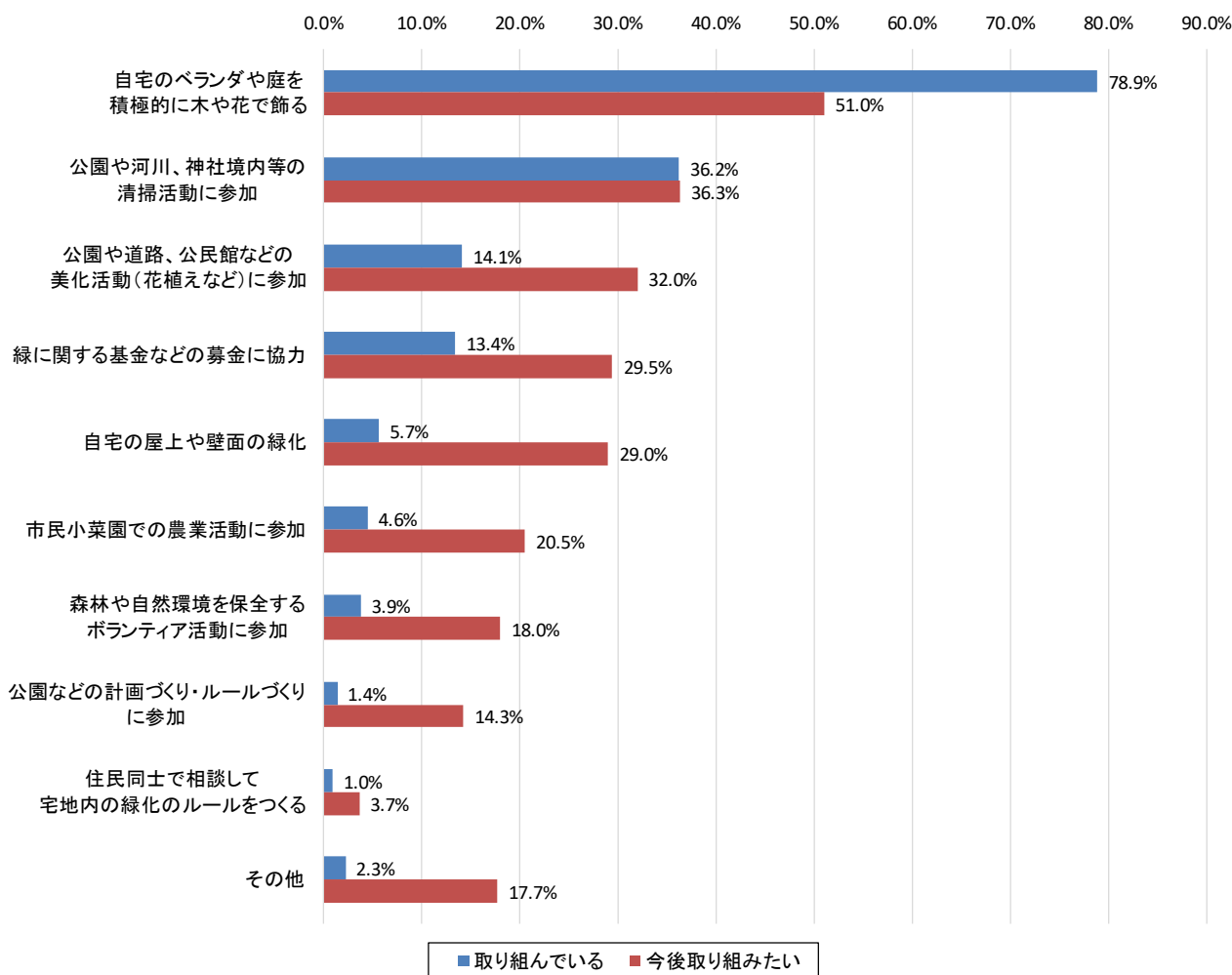
【参考：H21 年度調査】



(6) 市民の活動

1) 現在取り組んでいる活動、今後取り組みたい活動（設問 13）

- ・ 現在取り組んでいる緑化活動は、「自宅のベランダや庭を積極的に木や花で飾る」が約 79%と最も多い。次いで、「公園や河川、神社境内等の清掃活動に参加」が約 36%、「公園や道路、公民館などの美化活動（花植えなど）に参加」が約 14%と多い。
- ・ 今後取り組みたい緑化活動は、「自宅のベランダや庭を積極的に木や花で飾る」が約 51%と最も多い。次いで、「公園や河川、神社境内等の清掃活動に参加」が約 36%、「公園や道路、公民館などの美化活動（花植えなど）に参加」が約 32%と多い。



（現在取り組んでいる回答者数 701、今後取り組みたい回答者数 672）

<その他の内容>

○現在取り組んでいる

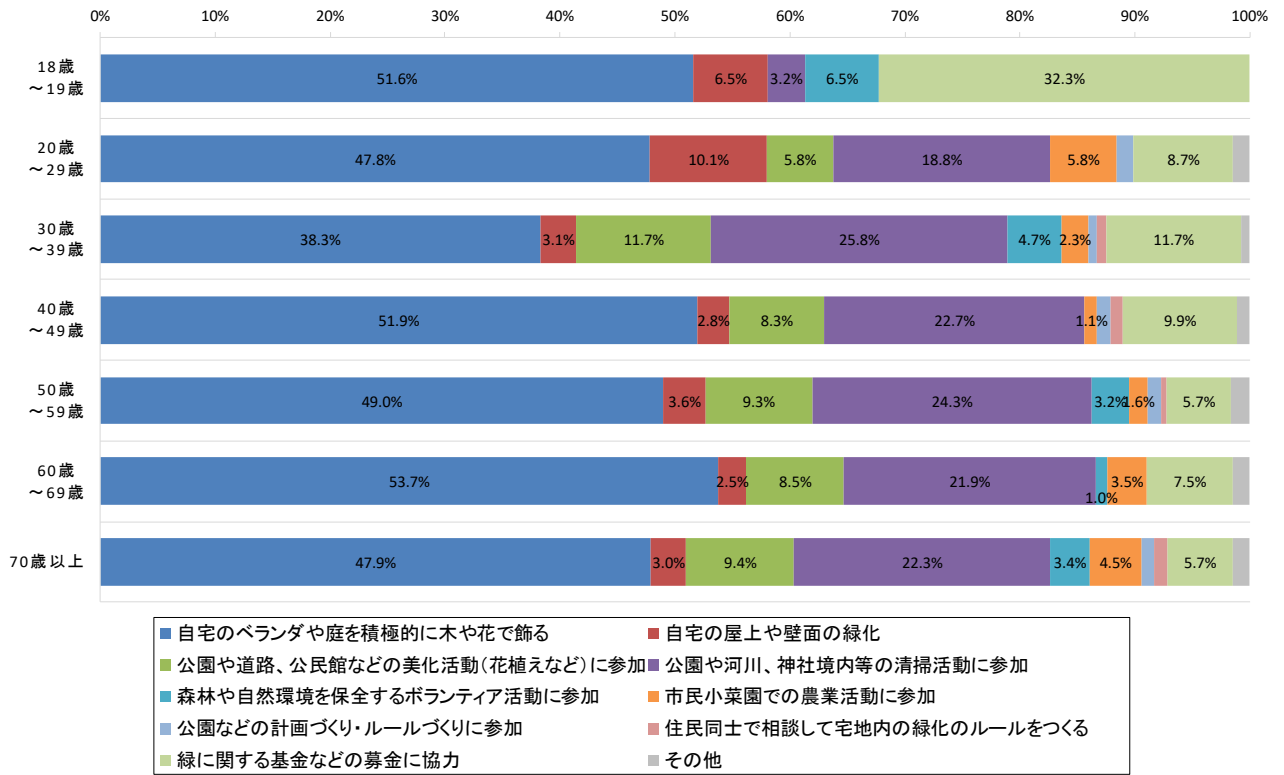
- ・ 家庭菜園 ・ 自身で所有する農地での農業 ・ 緑のある風景の写真を SNS で発信

○今後取り組みたい

- ・ 自宅の庭を緑化し開放 ・ 子どもと一緒に取り組める活動 ・ 沿道の遊休地の活用
- ・ 自然学習と PR

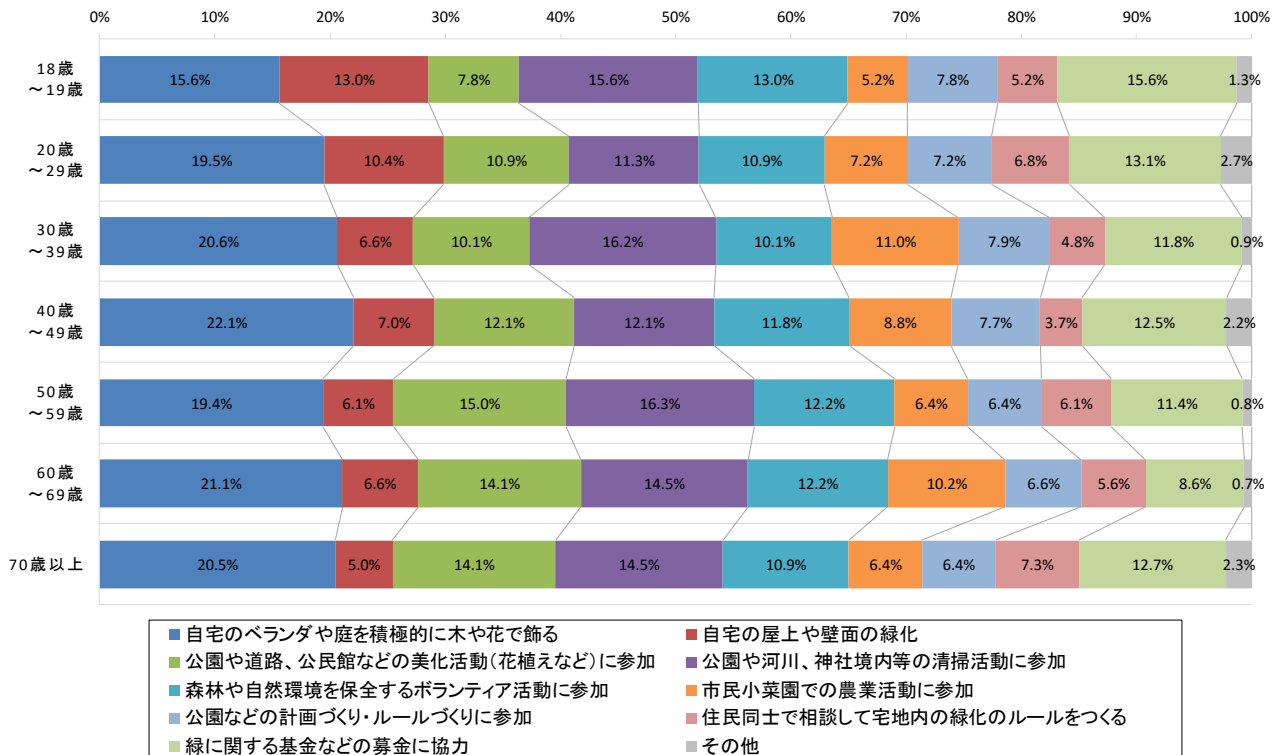
(年齢別・現在取り組んでいる活動)

- ・全年齢層で「自宅のベランダや庭を積極的に木や花で飾る」が最も多い。
- ・30歳未満では、「公園や道路、公民館などの美化活動（花植えなど）に参加」「公園や河川、神社境内等の清掃活動に参加」の割合が小さい。



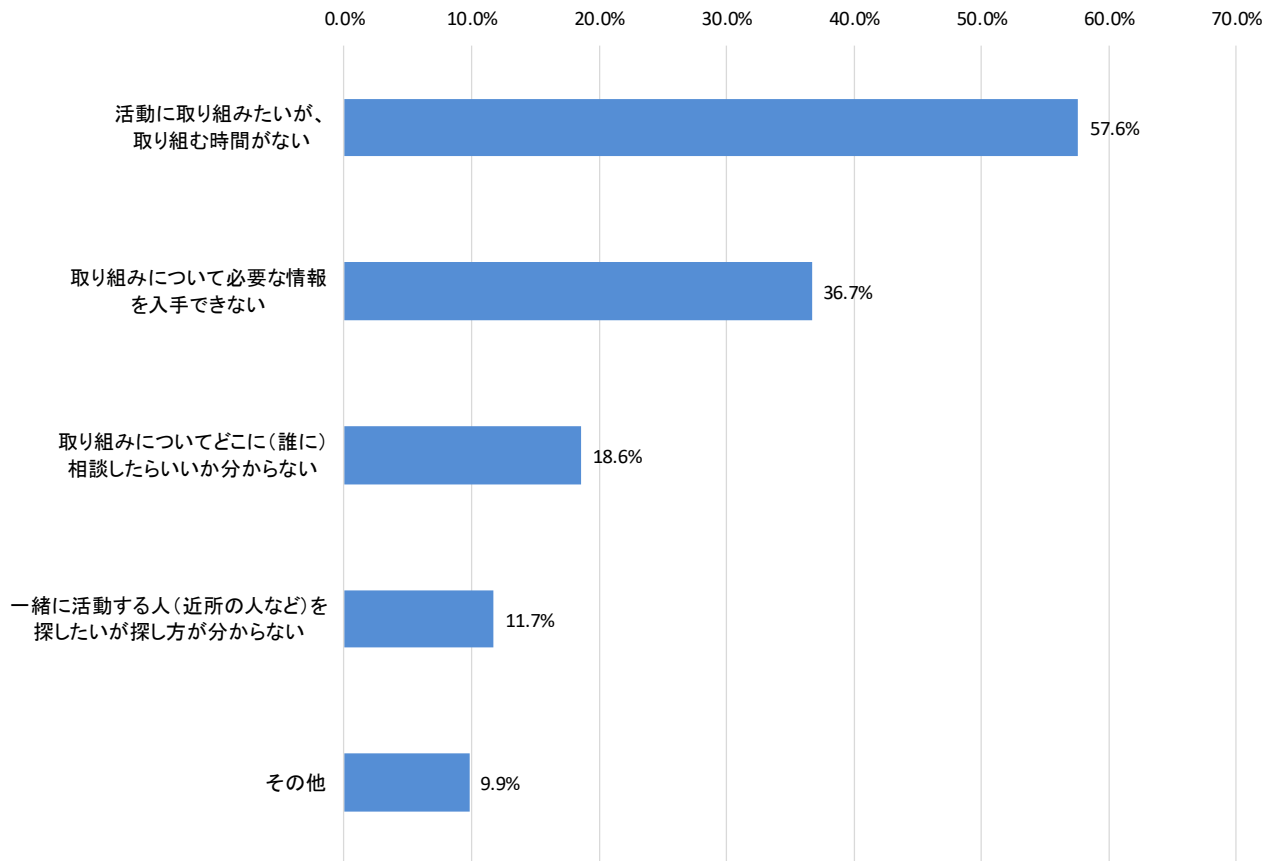
(年齢別・今後取り組みたい活動)

- ・40歳未満の若い世代においては、他の年齢層に比べて、「公園や道路、公民館などの美化活動（花植えなど）に参加」の割合が小さい。



2)活動に取り組む上での課題や妨げ（設問 14）

- ・「活動に取り組みたいが、取り組む時間がない」が約 58%と最も多い。次いで、「取組について必要な情報を入手できない」が約 37%と多い。
- ・その他の回答では、高齢化による後継者不足、地域において交流の機会が少ないことが課題として挙げられた。



(回答者数 802)

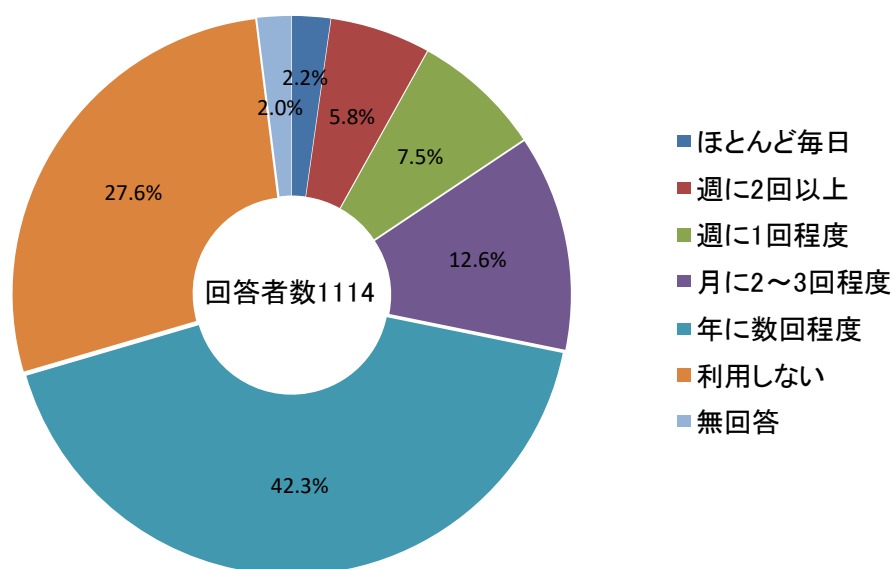
<主なその他の回答（自由記述）>

- ・年齢、健康面、体力面などの理由から活動を行うのが難しい。
- ・高齢化により、町内のボランティア団体も継続できるか不安である。
- ・気軽に 1 回単位で取り組めるものであれば参加しやすい。
- ・親子や友人同士で参加するイベントがあるとよい。
- ・「町内会への入り方がわからない」「近所付き合いがない」など。
- ・沿道の雑草が気になるため、花を育てる団体があればよいと思うが、そのような仕組みがあまりないと思う。
- ・木や花を植えたいが害虫や対策のための消毒など周囲への迷惑を考えると、ためらう。
- ・近くに公園や緑化空間がなく、活動の場がない。

(7)公園の利用について

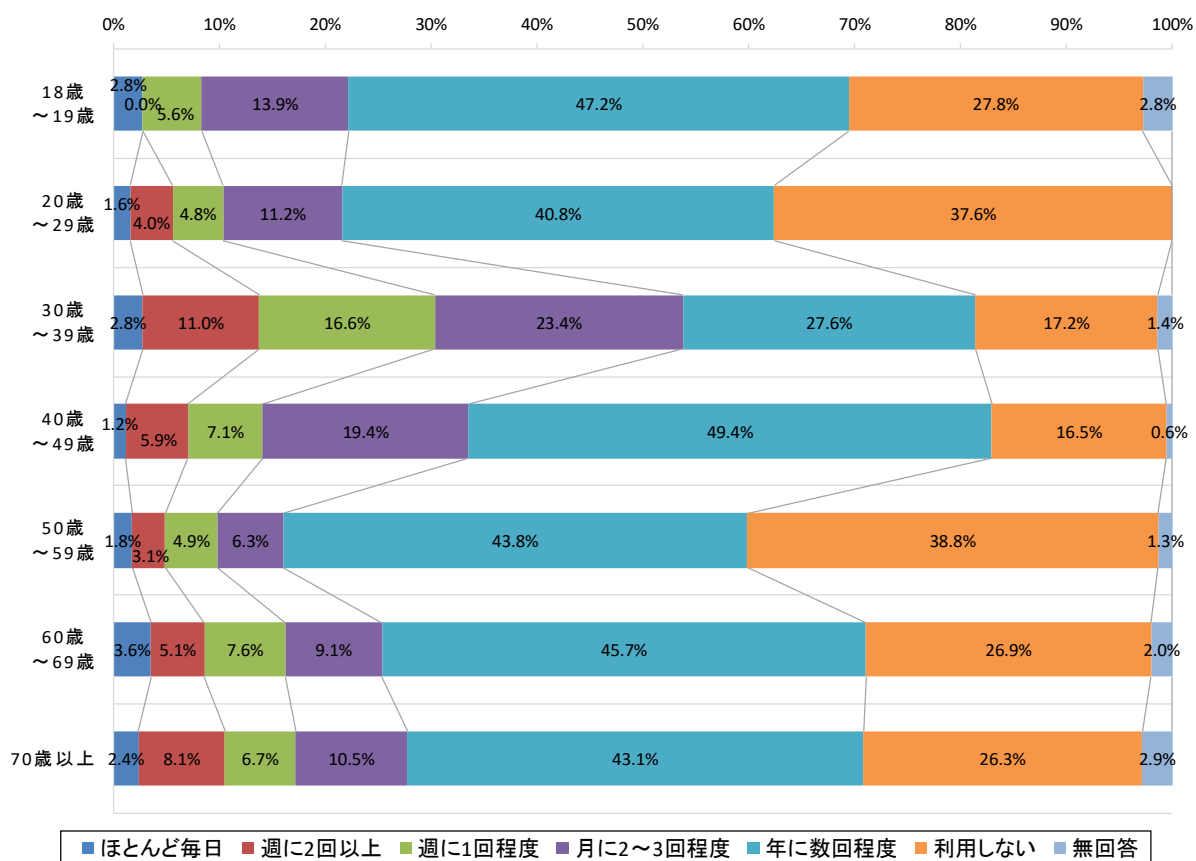
1)利用頻度（設問 15）

・「月に 2～3 回」程度以上の頻度で利用する人は、全体の約 28%となった。



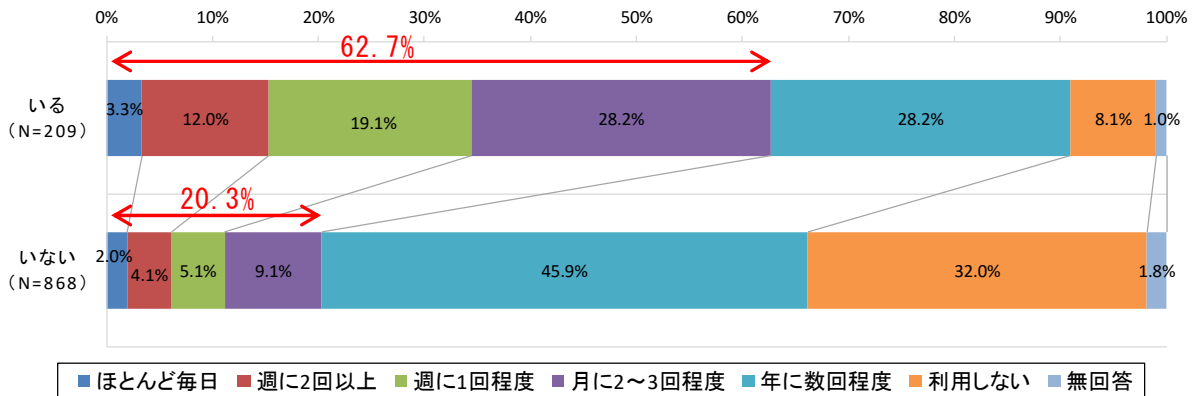
（年齢層別）

・年齢層別では、「月に 2～3 回」程度以上の頻度で利用する割合は、30 歳代が最も多く、次いで 40 歳代となった。



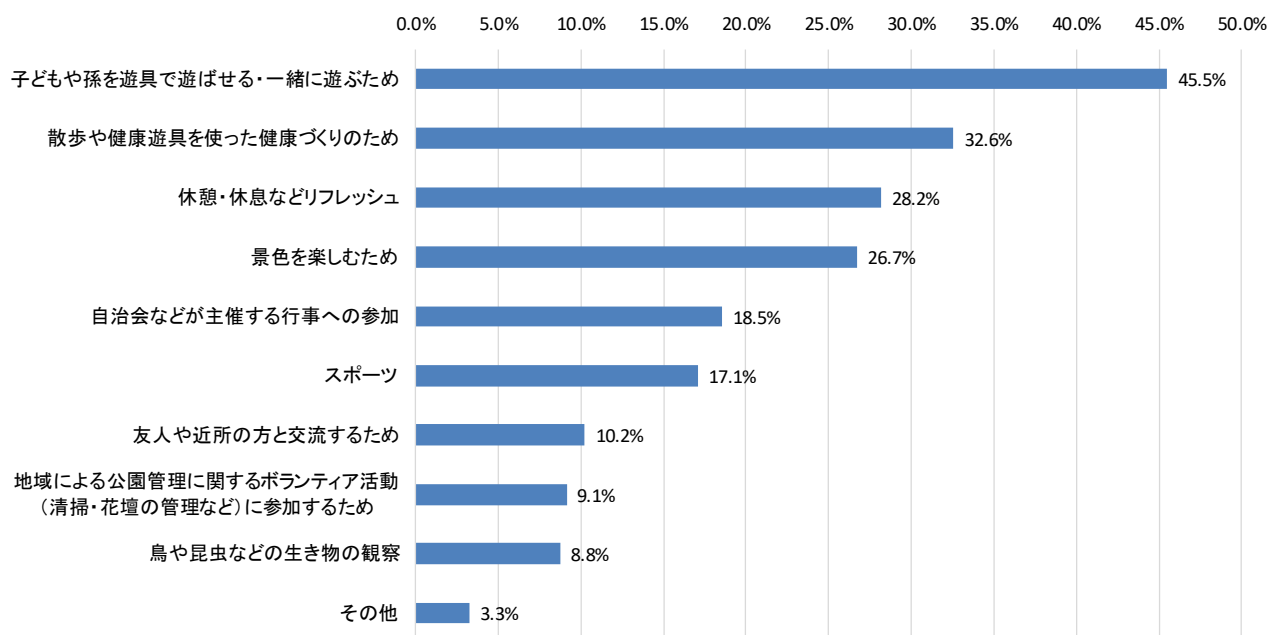
(小学生以下の子どもがいる・いない別)

・「月に2~3回程度」以上の利用を見ると、小学生以下の子どもがいる回答者の割合は、いない回答者の割合の約3倍となった。



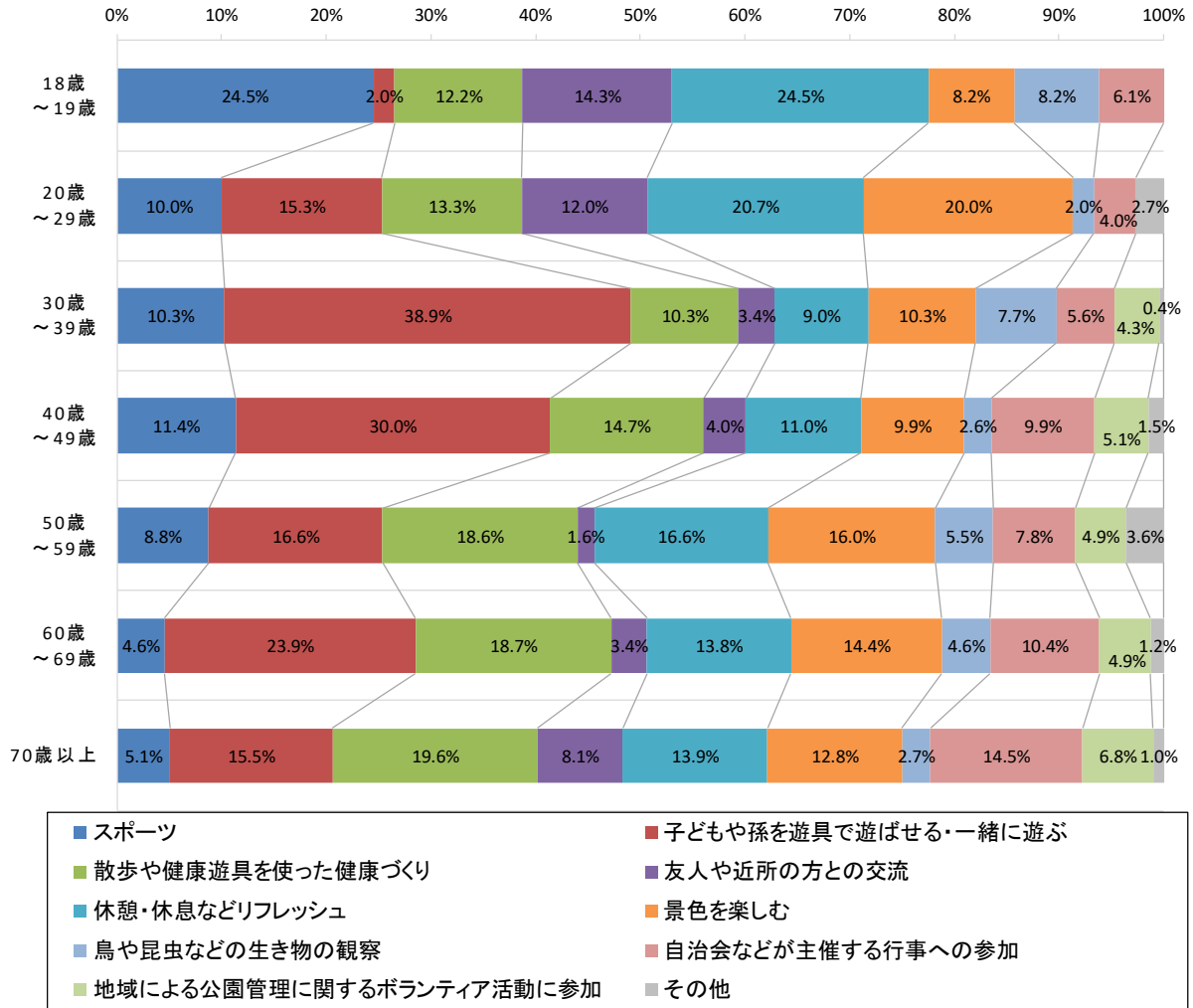
(8) 利用目的 (設問 16)

- ・公園利用の目的として、「子どもや孫を遊具で遊ばせる・一緒に遊ぶため」が約46%と最も多い。次いで、「散歩や健康遊具を使った健康づくりのため」が約33%、「休憩・休息などリフレッシュ」が約28%と多い。
- ・30歳代、40歳代、60歳代では、「子供や孫を遊具で遊ばせる・一緒に遊ぶため」が最も多い。50歳代以上では、「散歩や健康遊具を使った健康づくりのため」が多い。20歳代は、「友人や近所の方と交流するため」「景色を楽しむ」が多い。10歳代は「スポーツ」「休憩・休息などのリフレッシュ」が多い。
- ・小学生以下の子どもがいる回答者では、「子どもや孫を遊具で遊ばせる・一緒に遊ぶ」が約45%と最も多い。

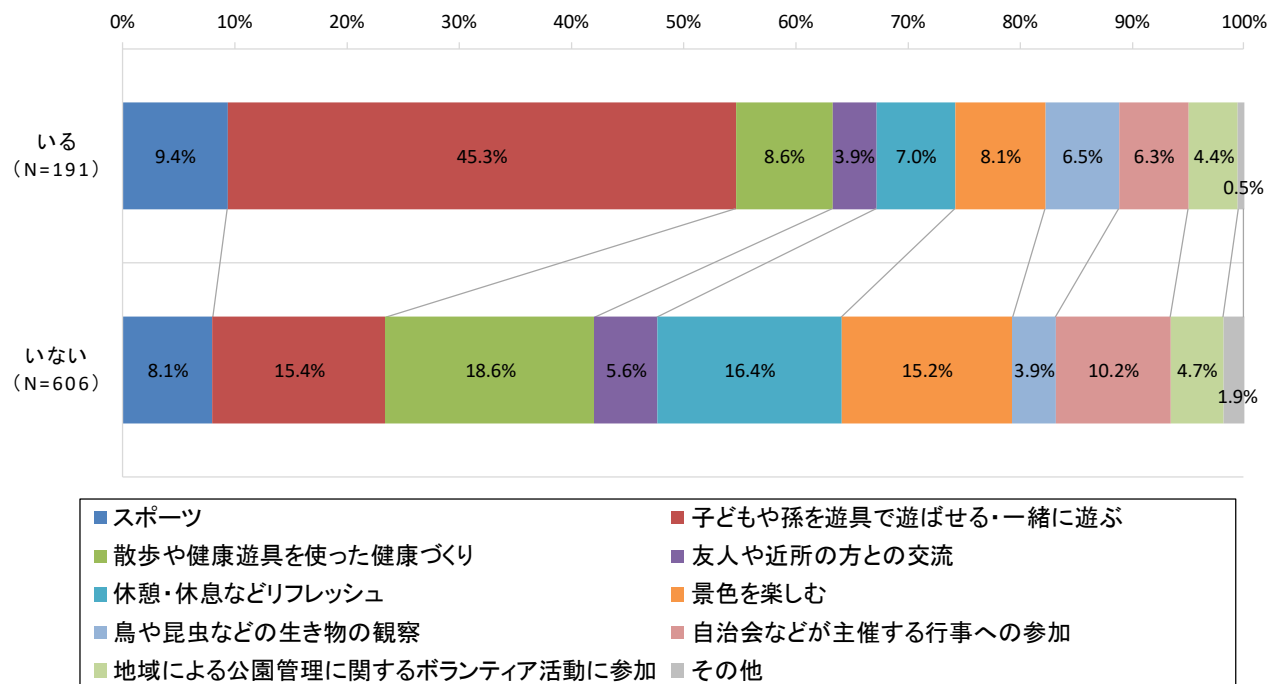


(回答者数 820)

(年齢層別)

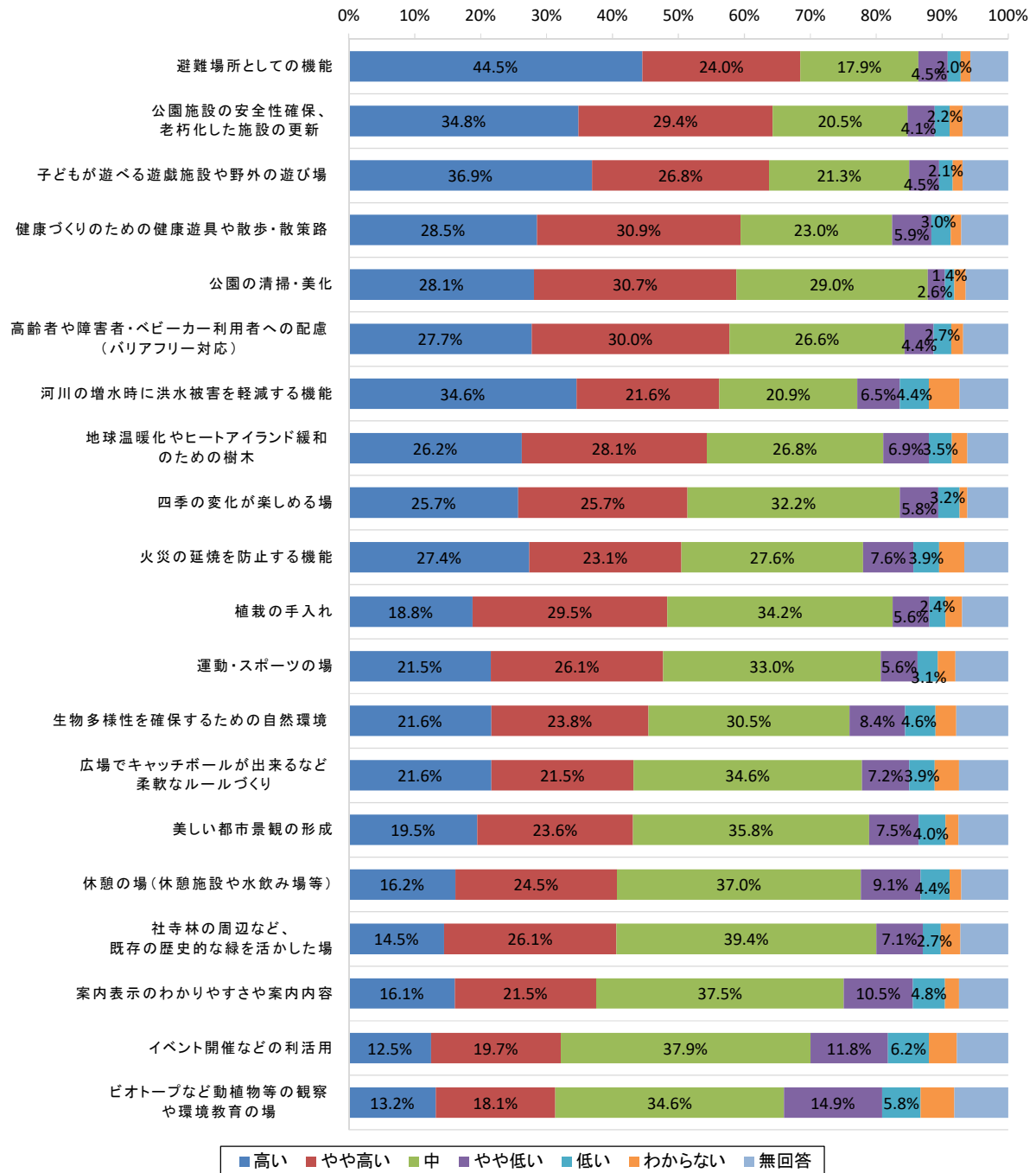


(小学生以下の子どもがいる・いない別)



(9)公園・広場について充実させたい点（設問 17）

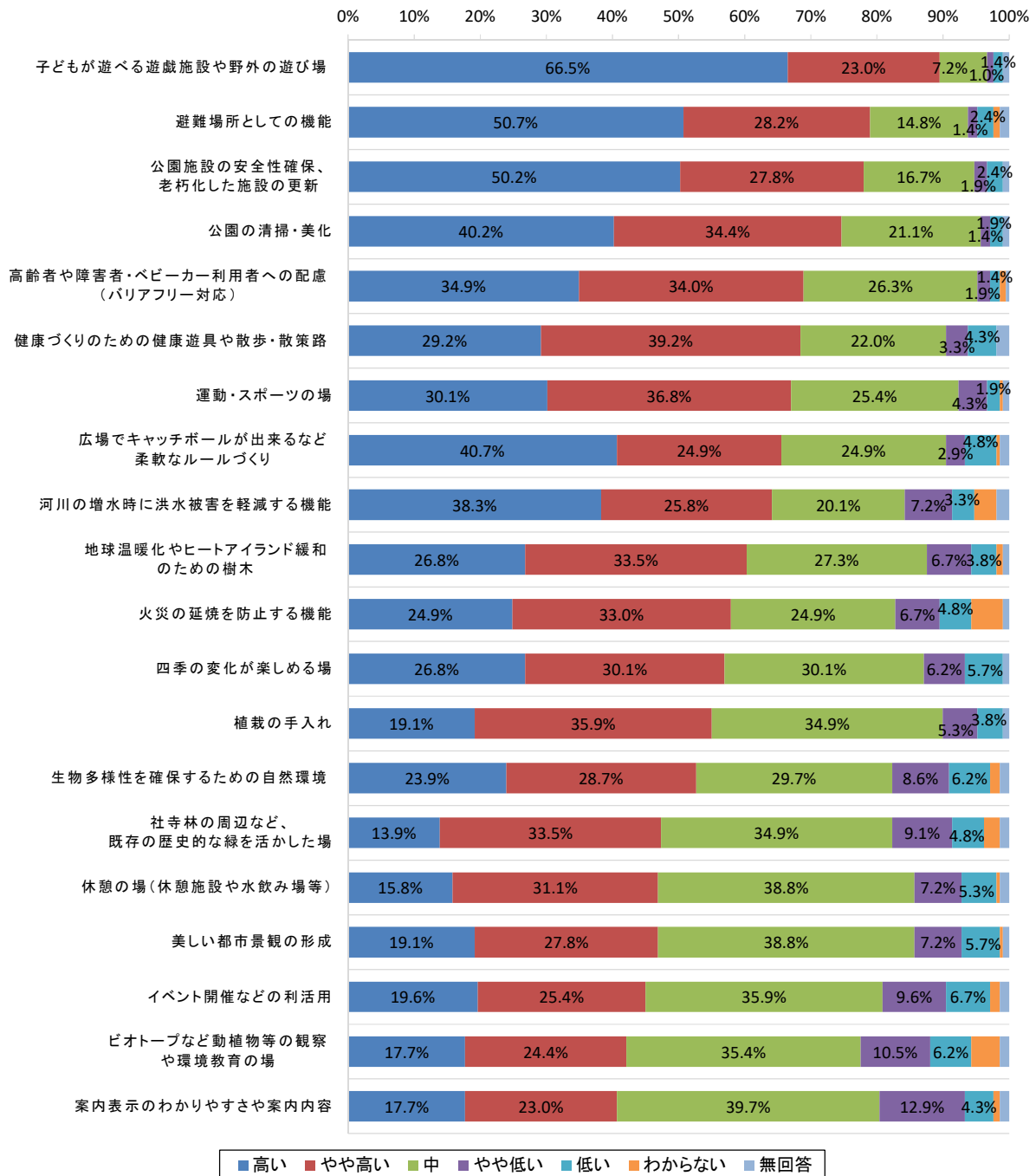
- 公園・広場について充実させたい点について、重要度が「高い」または「やや高い」と回答した方の割合の合計が多い上位 5 点は、「避難場所としての機能」（68%）・「公園施設の安全性確保・老朽化した施設の更新」（64%）・「子どもが遊べる遊戯施設や野外の遊び場」（64%）・「健康づくりのための健康遊具や散歩・散策路」（59%）・「公園の清掃・美化」（59%）となった。



（回答者数 1114）

(小学生以下の子どもがいる場合)

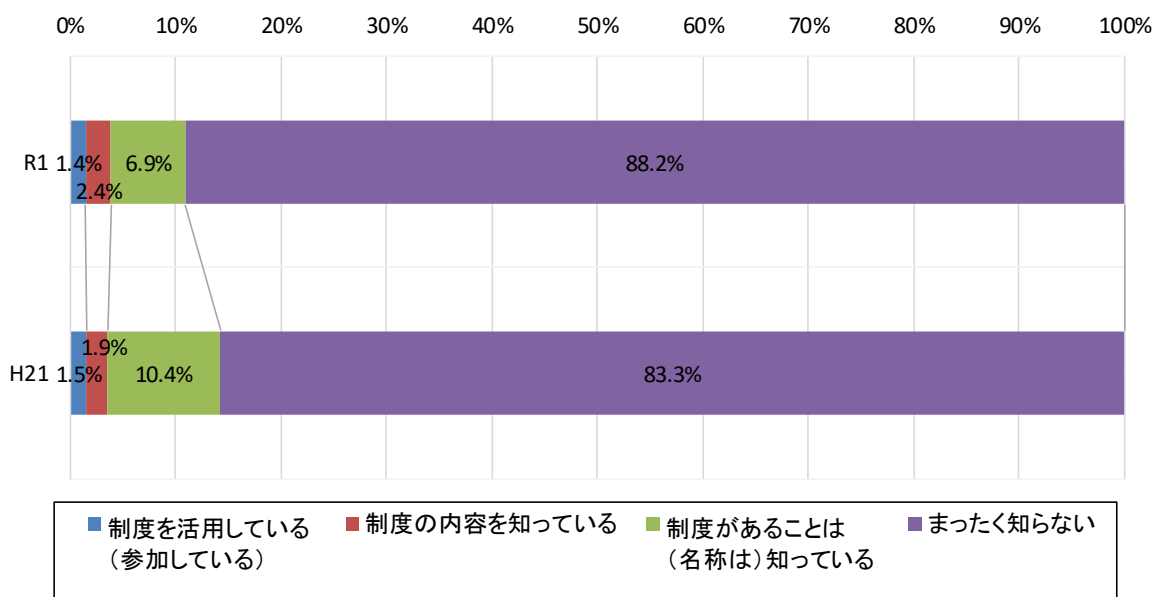
- 小学生以下の子どもがいる回答者では、「子どもが遊べる遊戯施設や野外の遊び場」の重要度が最も高く、「高い」「やや高い」の合計が約 90% となった。
- また、小学生以下の子どもがいる回答者では、「高齢者や障害者・ベビーカー利用者への配慮（バリアフリー対応）」の重要度が高くなっている



(回答者数 209)

(10) アダプトプログラムの認知度（設問 18）

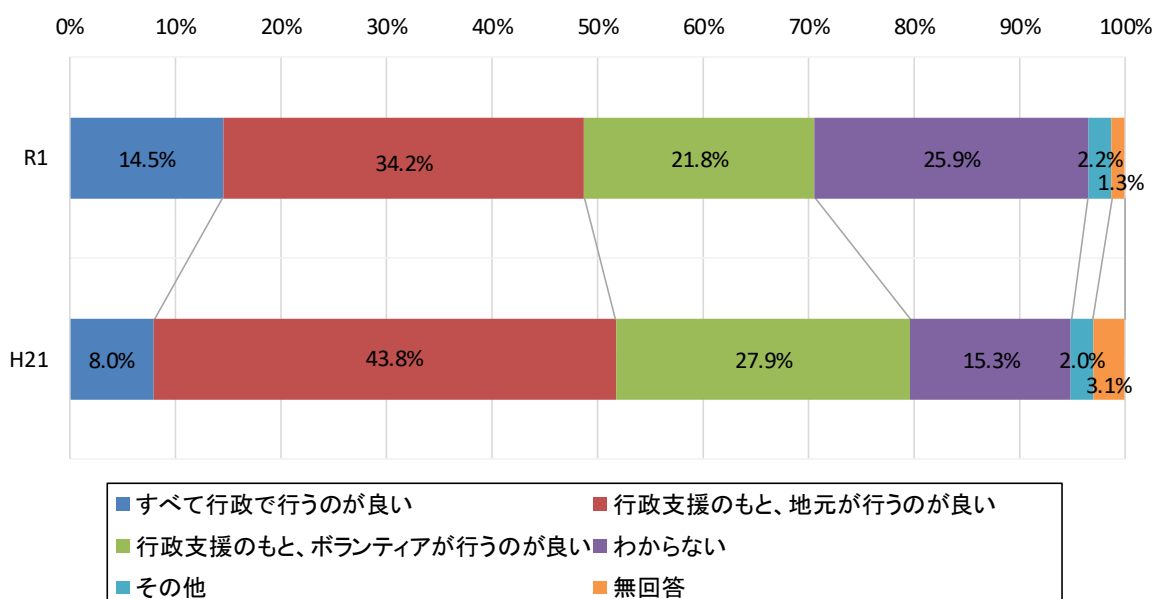
- ・制度について「まったく知らない」は約 88%と多く、平成 21 年度と比較して、多くなっている。



(回答者数 (R1) 1114、回答者数 (H21) 786)

(11) 身近な公園・広場の日常管理（設問 19）

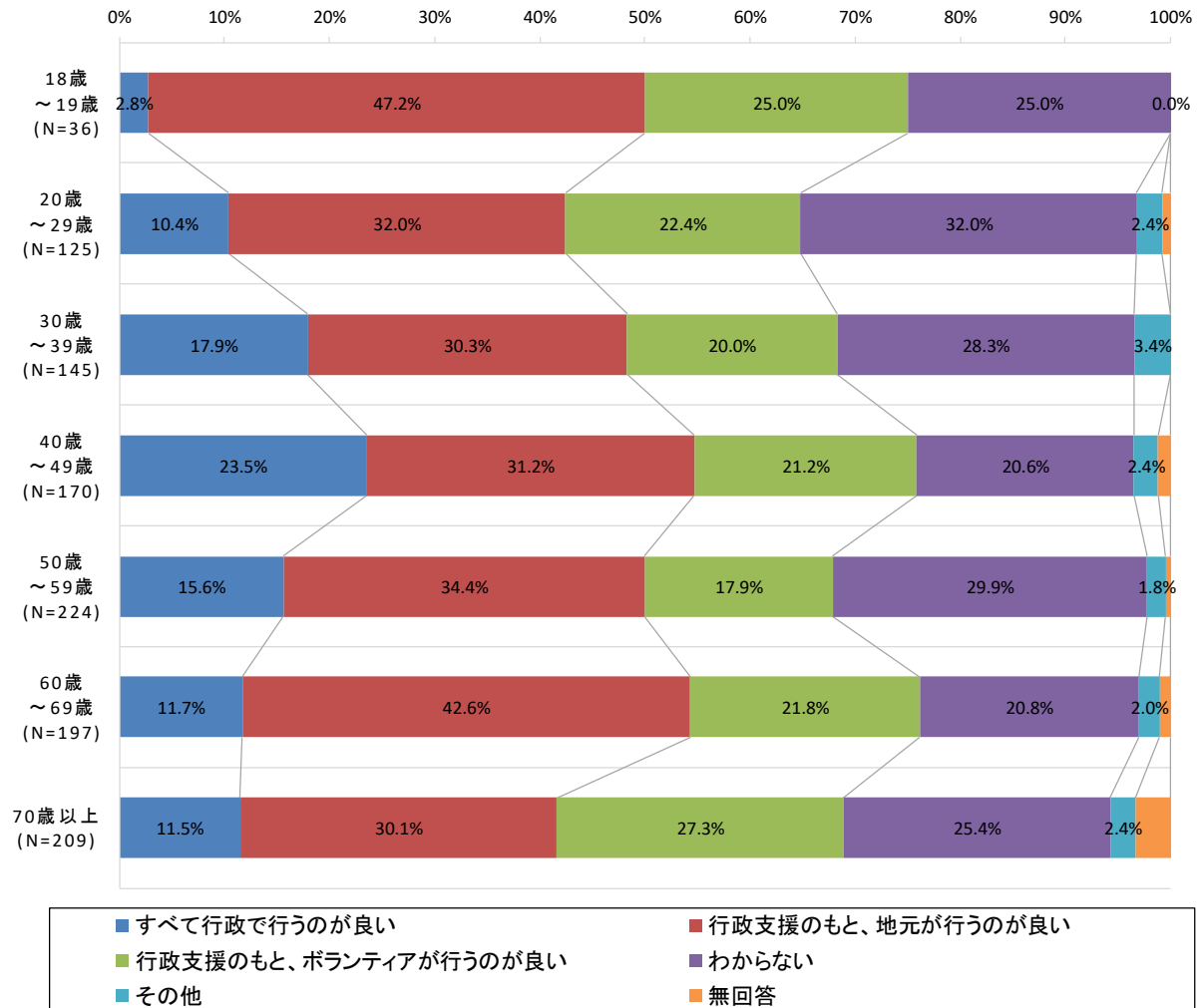
- ・身近な公園・広場などの日常管理は、「行政支援のもと、地元が行うのが良い」が約 34%と最も多い。
- ・平成 21 年度と比較して、「行政支援のもと、地元が行う」「行政支援のもと、ボランティアが行う」が減っている。



(回答者数 (R1) 1114、回答者数 (H21) 786)

(年齢別)

- 10歳代では、行政支援のもと「地元が行うのが良い」「ボランティアで行うのが良い」の合計が約72%と最も高い。次いで、60歳代が約65%となった。
- 20歳代では、「わからない」の回答も多い。



(12)豊川市における緑化や緑の保全、公園の整備に対する意見・提案（設問 20 自由記述）

■自由記述記入者数：538 人

<総括>

公園に関する意見

- ・ハード面では「子どもの遊び場の充実」「子どものスポーツの場の確保」「身近な公園の整備」「幅広い世代が安心して使える公園」が多かった。
- ・ソフト面では「公園利用のルールの柔軟化」「大規模公園のPR」が多かった。

緑の保全に関する意見

- ・「街路樹の維持管理」「佐奈川の整備」「自然と触れ合う場（公園に限らず）」「耕作放棄地や空き家・空き地の有効利用」が多かった。

市民協働に関する意見

- ・「アダプトプログラムの周知（今回のアンケートで興味が出たがどこで情報を得たらいいか分からない等）」「高齢化により地元対応が難しくなっている・若い世代も参加できる仕組みづくり」「行政の主導・行政と地元の連携」「市民による植樹」「花の苗や種子の配布、苗木の配布」「フラワーボランティアや花壇整備」「参加しやすいイベントづくり」などの意見があった。

<公園整備や維持管理、緑化に関連した意見>

- ・子どもの遊び場の充実（複合遊具・アスレチック遊具・滑り台やブランコなど一般的な遊具・遊具の多様化・老朽化した遊具の更新）
- ・子どものスポーツの場の確保（野球・サッカー・バスケットボールなどのボール遊び、スケートボードなど）
- ・公園利用ルールの柔軟化（ボール遊び・BBQ・子どもたちの花火など）
- ・身近な公園の整備（地域間の整備格差の是正）
- ・幅広い世代が安心して使える公園
- ・公園のトイレの維持管理清掃、洋式化、おむつ交換シートの設置
- ・赤塚山公園、東三河ふるさと公園のPR
- ・バラをテーマにした公園整備
- ・市民プールの代替施設、水遊びができる場所
- ・避難場所の整備
- ・災害時の公園利用方法の周知
- ・昔ながらの田園風景の保全
- ・地区計画による住宅緑化
- ・美しい街並みの創出
- ・老朽化した公園施設の維持管理
- ・公園の芝生化
- ・公園利用マナーの周知（犬の糞の始末、ハトや野良猫への餌やりの禁止など）
- ・健康遊具の整備

＜緑の保全に関連した意見＞

- ・ 佐奈川の整備（桜の老朽化対策・遊歩道整備・河道掘削・草刈り・花植え）
- ・ 街路樹の維持管理（カーブミラーが見えない・信号機が見えない・見通しが悪い・倒れそうな樹木の伐採・側道や中央分離帯の雑草）、公園樹木の維持管理
- ・ 子どもが自然と触れ合える場の整備
- ・ 耕作放棄地の有効活用、管理
- ・ 空き家や空き地の有効活用
- ・ 既存の緑の保全
- ・ 山林管理、管理技術の継承
- ・ 農林業の強化、農地の宅地化の歯止め
- ・ 耕作放棄地の市民への貸し出し
- ・ 音羽川、帯川の整備

＜市民協働に関連した意見＞

- ・ アダプトプログラムを周知してほしい、活動の情報を入手しやすい仕組みづくり
- ・ 市民が花を植えられるスペースの整備、フラワーボランティアの拡大、市民による公園の花壇整備
- ・ 花の苗や種子、苗木の配布
- ・ 市民による植樹、樹木管理
- ・ 自治会や老人会など高齢化で現状の管理体制が厳しい
- ・ ボランティアへの行政支援
- ・ 市職員の清掃活動の参加、地元との連携
- ・ 高齢者の社会進出のきっかけとなる仕組みづくり
- ・ 小学校や中学校で教育の一環として公園管理に取り組む
- ・ 学校の日での公園の清掃活動
- ・ 若い世代のボランティアへの参加を促す仕組みづくり
- ・ 子どもへの自然学習や里山学習の実施
- ・ 子どもだけでなく幅広い世代への環境学習の実施、市民の意識向上
- ・ 行政主導でイベントの企画
- ・ 自由に参加しやすい仕組みづくり
- ・ 地元への意見ヒアリング、行政と地元の対話の場づくり、地元住民へのアイデア収集
- ・ 学生へ市の取組をPR
- ・ 個人宅での道路沿いなどにおける緑化活動への補助金制度、地域の緑化活動への補助金制度

(13)総括

➤ 緑に求められる役割

- ・地球温暖化の防止、生物多様性、美しい景観などの役割が求められており、前回調査時と類似した傾向となった。

➤ 象徴する緑

- ・赤塚山公園、東三河ふるさと公園、佐奈川（堤のサクラ）、本宮山、御油のマツ並木などが豊川市を象徴する緑として認識されており、前回調査時と類似した傾向となった。

➤ 緑の量

- ・寺社の緑、まちなかの田畑、河川空間の緑が多いと認識されている。
- ・緑の量は多くも少なくもないと感じている人が多く、概ね10年間においては減った、もしくは変化はないと感じている人が多い。
- ・小学校区別では、緑の量が「多い」と「少ない」の回答割合を比較した場合、「多い」の割合の方が大きい小学校区は、北部及び東部に集中した。

➤ 緑を守り増やす活動

- ・緑を守り増やすため、「河川沿いの緑の保全」や「公園・広場の整備」、「寺社の緑の保全」などが求められている。
- ・緑を守り増やす活動では、「自宅の緑化」、「公園などの清掃」、「公園などの美化活動」に取り組んでいる。年齢層別では、全年齢層で自宅の緑化が大きくなった。30歳未満では、「公園などの美化活動」「公園などの清掃」の割合が小さい。
- ・今後取り組みたい活動では、「自宅の緑化」、「公園などの清掃」、「公園などの美化活動」への取組意思が示された。40歳未満の若い世代においては、他の年齢層に比べて、「公園などの美化活動」の割合が小さい。
- ・今後取り組みたい活動を行う上での課題では、「時間がない」の次に「情報の入手」が多い。

➤ 公園・広場の利用

- ・月に2~3回以上の頻度で利用する割合は約3割でありあまり利用されていない。ただし、小学生以下の子どもがいる回答者では約6割が月に2~3回以上の頻度で利用している。主な利用目的は、「子どもや孫を遊具で遊ばせる」、「散歩・健康づくり」、「リフレッシュ」である。
- ・公園・広場の整備では、「防災機能」、「公園施設の安全確保・老朽化施設の更新」、「子どもの遊び場」を重視している。小学生以下の子どもがいる回答者では、「子どもの遊び場」や「バリアフリー対応」の重要度が高くなっている。

➤ **みどりの維持管理**

- ・豊川市公共施設アダプトプログラムの認知度は低く、8割以上が知らない状況である。
- ・身近な公園・広場の管理は「行政支援のもと、地元が行うのがよい」が多い。ただし、前回調査と比較して行政支援のもと地元やボランティアにより管理を行うのがよいという回答は減った。年齢別では、地元・ボランティアにより行うのが良いと回答した割合は、10・60代が高い。20歳代では「わからない」の回答も多い。

➤ **市民からの緑化・保全・公園整備に対する提案及び意見**

- ・公園に関するハード面では「子どもの遊び場の充実」「子どものスポーツの場の確保」「身近な公園の整備」「幅広い世代が安心して使える公園」が多かった。
- ・公園に関するソフト面では「公園利用のルールの柔軟化」「大規模公園のPR」が多かった。
- ・緑の保全に関しては、「街路樹の維持管理」「佐奈川の整備」「自然と触れ合う場（公園に限らず）」「耕作放棄地や空き家・空き地の有効利用」が多かった。
- ・市民協働に関しては、「アダプトプログラムの周知」「高齢化により地元対応が難しくなっている・若い世代も参加できる仕組みづくり」「行政の主導・行政と地元の連携」が多かった。